

# ゆうあい報 おだぴたる



社会医療法人  
祐愛会織田病院 ODA REGIONAL MEDICAL CENTER

発行者 祐愛会織田病院企画室  
責任者 織田 正道

## ポストコロナに向けてグループ全体でDXを本格化

理事長 織田 正道

新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）が、この5月に感染症法上の「5類」へと移行し、法律上の行動制限がなくなりました。未だに感染拡大を繰り返していますが、社会的にはポストコロナに向けて確実に動き出しています。その一つが急速なデジタル化、さらにはオンライン化の進展です。某経済新聞の一面トップに「職場によっては4割がテレワーク併用」との記事が掲載されました。私共のような医療や介護分野は、従来の考えからすると労働集約型でありオンライン化の流れに否定的な見方が多かったのですが、この3年間で感染予防と言う大前提もあり、多くの医療機関や介護サービスにおいてオンライン活用が広がり、その流れは診療、会議、研修と急速に進み始めてい

ます。私自身、当初は対面に比べると物足りなさを感じることもありましたが、繰り返し使っているうちに、その活用に慣れ、便利さを実感するようになってきました。特に会議などは移動時間や待ち時間が無くなり、時間を効率的に使えるようになったことは大きな利点です。今後、その活用範囲は間違いなく広がり、コロナ前には戻ることはないと思います。国も「医療DX（Digital Transformation）推進本部」を設置し、「全国医療情報プラットフォームの構築」「電子カルテの標準化・普及」「診療報酬改定時の負担削減」といった課題への取り組みを公表しました。当グループでは「医療の質向上」、「業務効率化」、「患者の利便性向上」をさらに進めるためにデジタル化、オンライン化を活用し業務

そのものを抜本的に見直したグループ独自のDXを推進しています。例えば、織田病院では従来の取組みに加え、AIを使つての問診や退院支援、さらにはRPA（Robotic Process Automation）、電子カルテのスマートフォン活用など、その取組みが広がっています（図）。また、グループ内の高島病院や介護老人保健施設でも、スマートベットをはじめ患者情報の電子化、オンライン診療や面会、グループ内外の会議教育研修（オンラインニング）なども進みましました。これからはさらに、国が推進するDXにも積極

的に取組み、グループ全体でポストコロナに向けた時代の大きな変革に向かって行きたいと思えます。さあ、皆で近未来に向けて進んでいきましょう。

### ICT活用で業務の抜本的見直し



# 佐賀大学医学部附属病院 地域総合診療センター開設！

副院長／総合診療科部長 織田 良正

佐賀県では高齢者人口の増加や、将来的な離島・僻地医療のニーズに対応するため、総合診療医の育成が第7次佐賀県保健医療計画の課題に挙げられています。佐賀大学医学部附属病院は昭和61年に国立大学初の総合診療部を開設するなど、開学当初から先進的な地域医療に取り組んでいる大学病院です。

佐賀大学医学部附属病院では、以



前から総合診療医の養成に注力してきましたが特に少子高齢化の進む地方においては、複合疾患をもつ患者の病態に対応し、専門性を持ちつつも、総合的な診療ができる医師が必要です。このような地域のニーズに応えるべく、令和5年3月1日付で織田病院内に佐賀大学病院附属機関として、平成24年の佐賀市立富士大和温泉病院、平成28年の独立行政法人国立病院機構 嬉野医療センターに続き、第3の地域総合診療センターが開設されました。

現在当院総合診療科には、大学の附属機関として指導医クラスと専攻医クラスの総合診療医が派遣され、地域医療実践の中で総合診療医教育が行われています。さらに大学の上級医によるVisit teaching（訪問指導）も定期的の実施され、大学病院同等の指導も受けることが可能となっています。

今後もさらに地域医療において、臨床だけでなく、連携、教育、研究の実践の場として、その役割を務めていきたいと思えます。

※以下は、佐賀大学ホームページ（<https://www.saga-u.ac.jp/koho/press/2023020928999>）に掲載されているプレスリリースです。

## 【期待される成果・効果】

今回、織田病院が選定された理由として、既設の2つのセンターは、それぞれ3次急性期病院と慢性期病床を有する2次急性期病院であり、それらとは異なる地域の救急医療を担う2次急性期病院であることが挙げられます。異なる特徴を有する病院に地域総合診療センターを設置することで、本院と織田病院の間の連携だけではなく、センター間での連携も大きく期待できます。

また、総合診療医の養成には、単純に養成コースを医学部に設置するのではなく、養成機関を院外に恒常的に設置する形態がより効果的であり、かつ近隣への波及効果も含めて高い成果が得られることが確認できています。総合診療医による医療の最適化の効果は、設置医療機関のみでなく当該医療圏の専門医の負担軽減、つまり医師の働き方改革にも繋がるものです。また

当該センターへの派遣医師は専門医研修（後期研修）を兼ねるため、意欲的に修練を積むことが期待されます。さらにリサーチスキルを有する大学教員が関わることで、臨床研究を主眼とするリサーチマインドの涵養も可能です。





# BCP総合訓練 ～大規模地震を想定して～

防災救命担当部長 中島 来

当法人では、近年頻発する自然災害や感染症の拡大、サイバー攻撃等が発生した場合に、被害を最小限に抑え、地域医療を守る体制を維持し、外来・入院・訪問診療を継続できるように、また万一中断を余儀なくされた場合は、可能な限り早期に復旧させるためにBCP (Business

Continuity Plan: 事業継続計画) を策定しています。今回、BCPの実効性の確認と職員への周知、また策定後の検証を目的とした総合訓練を行いました。

訓練では、平日の午後(14時56分)、震度6強の地震が発生し建物に大きな損壊が生じ、院内の階段や設備(エレベーター停止、サーバーダウン)・医療機器に故障等の被害が生じた状況を想定しました。地震発生直後、各部署は地震アクションカードに沿った活動を開始しました。アクションカードとは災害発生直後に最



低限必要となる行動を要約したもので、部署ごとに作成されており、部署内全員が速やかに行動できるようにするためのものです。発災後、直

ちに防災活動隊指揮本部が設置され、各部署からの被害状況を集約、それに基づいたBCPが指揮本部から発動されました。BCPが発動されると、院内のレベル別優先業務のうち低緊急業務が停止され、指揮本部の指示に従って「連絡調整・病棟・外来・避難支援・薬剤・食料」の班別に活動するという流れで訓練を行い、以下の点について検証しました。

- ①地震アクションカードが使えるか
- ②情報収集の確実性はどうか
- ③LINE WORKSでの一斉送信ができたか
- ④BCP発動はスムーズにできるか
- ④電子カルテが使えない場合の対処法
- ⑤入院患者を階下に降ろす手技の確認、

酸素装着者・点滴継続者の搬送時の注意点

- ⑥搬送車両、搬送方法

初めてのBCP訓練を振り返り、初めのBCP訓練を振り返り、  
①アクションカードの修正を要する部署がある。  
②指揮隊に入ってくる情報量が多く、整理・分析の仕方に検討を要する。  
③指揮隊内の指示系統を明確化させておく必要がある。  
④業務継続の可否を判断する情報収集が難しい。  
⑤訓練を行うことで初めて気がつく事が多い、等の問題がみえてきました。定期的に訓練を繰り返すことでBCPの実効性を向上させていくことが必要だと考えます。



# 災害用非常食の試食体験！

栄養食事サービス部 宮原克昂

今年の梅雨の大雨で、九州北部や東北地方では土砂崩れや河川の氾濫による被害に見舞われました。近年では毎年のように全国各地で自然災害が発生しており、南海トラフ地震等大きな自然災害も懸念されています。職員の皆さんに、防災意識を高めてもらうことを目的として、非常食試食会を実施しました。後日、184名のスタッフにアンケートを実施し、被災時の食事として満足できた89.7%、防災意識の向上につながった93.5%、との回答を得ました。

## 《試食しての感想》

- ・思ったより美味しかった。
- ・水さえあれば簡単にご飯が食べられるので、災害時にはありがたいと思った。
- ・災害時に食べるものとしては、十分な量と味だった。
- ・非常時だからこそ、満足の出来る食事が取れることが大事だと思った。家の備蓄なども見直していきたいと思った。



## 看護師特定行為入講式 ～在宅・慢性期領域～

令和5年4月10日、第6期生 看護師特定行為研修入講式を執り行いました。

今年度は、第6期生として3名が入講されました。全員が「在宅・慢性期領域」を受講されます。「祐愛会織田病院」、「祐愛会高島病院」、「介護老人保健施設 清涼荘」から1名ずつの入講となりました。「看護師特定行為研修を既に修了された先輩のように、アセスメント力を身につけて現場で活躍したい。」「看護師としてのスキルアップに挑戦したい。」「仕事との両立は不安もあるが、1年間の研修を楽しみたい。」と、受講を決めたきっかけや、1年後の自分の姿に対する期待を、力強く述べられました。



## 看護師特定行為修了者 第5期生の紹介



**久本 由香** 訪問看護 看護師

私は4月から訪問看護で勤務しており、研修で学んだフィジカルアセスメントや気管カニューレ管理等を行っています。体調の異変に早期に気づき、生活面も含め支援を行う事で、利用者さんが望む場所で長く過ごせるよう、2名の特定行為修了生と共に、活動していきます。

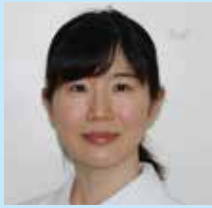


**栗山三和子** ケアコートゆうあい1階療養棟 看護師

看護師特定行為研修を終了して視野が広がったと感じています。以前は、利用者さんの状態変化時に経験則で対応していましたが、研修修了後は全体を診るようになりました。フィジカルアセスメントや臨床推論などを学び、考え方や知識を深めることができました。今後は、チーム医療における「かけ橋」の役目として、多職種協働で支援を行ってまいります。



# 新任医師紹介



**荒巻 芽生**  
内科(総合診療)

本年度より織田病院へ勤務しております医師4年目の荒巻芽生(めい)と申します。佐賀大学を卒業後、嬉野医療センターでの初期臨床研修を経て、佐賀大学医学部付属病院 総合診療部へ入局し、これまで大学で勤務して参りました。出身は鳥栖で、部活は空手をしていました。趣味はベランダで植物を育てることです。大変未熟者ですが、よろしくお願いいたします。

もともと地域に根差した医師、病気の予防から最期の時まで、あらゆる内科的疾患に対応できる医師を目指して、総合医を志しました。地域医療に携わる先生方やスタッフの皆さまのように、患者さまが病気を抱えながらも、一生を通して辛い症状が少ないよう、悪化しないように診ていくことのできる医師になれるよう、また、患者さまの考えや背景、家族や地域の状況等を含めて考え、最善のマネジメントができるよう精進してまいります。自分の力量不足を日々実感いたしますが、先輩方の熱いご指導をうけつつ、精一杯努力していこうと思います。今後ともよろしくお願いいたします。



**三宅 修輔**  
外科

本年度より勤務させて頂くこととなりました。私は卒業臨床研修が終了してまもなくの2006年にもこちらで1年間勤務させて頂いたことがあり、その際には大変ご迷惑をおかけし、随分とお世話になりました。その後消化器外科疾患を専門に県内各地で勤務し、16年ぶりに鹿島の地に戻って参りました。腹腔鏡手術を中心に研鑽を積んでまいりました。専門としては下部消化管ではありますが、幅広く手術に取り組んでまいりたいと考えております。微力ではありますが、皆様のお役に立てればと考えています。“体は大きいが、フットワークは軽く”をモットーにがんばりますので、今後ともよろしくお願いいたします。



**織田 寛子**  
麻酔科

本年5月からお世話になっています。私は研修医終了後、九州大学麻酔科に入局し、大学病院や九州医療センター、JCHO九州病院などで勤務しました。鹿島には中学までいましたので20年以上ぶりとなります。今までとは違った環境で戸惑うこともありますが、スタッフのみなさんに支えていただきながら、日々過ごしております。患者さんが安心して手術を受けていただけるような環境をつくるよう心掛けてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



**江副 優彦**  
内科(総合診療)

これまで佐賀大学医学部附属病院、国立病院機構嬉野医療センターの勤務を経て、7月より織田病院に赴任となりました。地域の先生方ももちろんのことでございますが、院内外問わずスタッフの方々のお力添えをいただきながら、南部医療圏の地域に根差した医療に少しでも貢献できるよう精励する所存です。至らぬ点も多く、ご指導賜ることも多くあるかと思いますが、よろしくお願いいたします。



**藤本 峻**  
内科(消化器)

令和5年4月1日より消化器内科に着任いたしました藤本峻です。これまでは嬉野医療センターや、伊万里有田共立病院などで勤務して参りました。まだまだ勉強中の身ではございますが、多くの患者様の助けになるよう精一杯頑張っていきたいと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。



**今村美乃莉**  
外科

2023年4月1日、佐賀大学医学部一般消化器外科より着任しました今村美乃莉と申します。2020年に佐賀大学を卒業後、唐津赤十字病院での初期研修にて基本的な医師業務を学ぶとともに熊本県の豪雨災害に対する医療支援など経験してまいりました。

その後、外科疾患、乳腺疾患に興味を持ち佐賀大学医学部一般消化器外科に入局いたしました。専攻医1年目は佐賀大学で勤務を行い外科手術、入院管理について勉強してきました。本年度から織田病院での勤務となり、ごはん・日本酒・野菜がおいしいと噂の鹿島での生活を楽しみに思うとともに、地域医療、急患診療に携われることをうれしく思います。力量不足で地域の先生方にもお世話になることも多々あるかと思いますが、微力ながらも鹿島の地域医療に少しでも貢献できるよう努力してまいります。なにとぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



**草場 啓彰**  
形成外科

本年度より久留米大学形成外科・顎顔面外科学講座より着任しました。久留米大学を卒業後久留米大学病院にて初期研修を修了し、入局後は新古賀病院、九州医療センターなどで勤務して参りました。新天地での勤務に不安や期待もありますが、皆様のお役に立てればと思います。今後ともよろしくお願いいたします。



**岡村 誠司**  
耳鼻咽喉科

令和5年度より織田病院耳鼻咽喉科で勤務させて頂くことになりました。佐賀大学を卒業し、佐賀大学医学部付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科に入局、今年で医者9年目に突入しました。まだまだ若輩者ですので研鑽の毎日ですが、微力ながらも患者様のお役に立てるよう尽力していく所存です。数年前にも当院に勤務した時期があり、ご記憶の方もおられるかと思いますが、その方々には、少しでも成長した姿をお見せできればと思います。よろしくお願いいたします。



**本多 勇輔**  
耳鼻咽喉科

令和5年3月1日より織田病院で勤務させて頂くこととなりました。長崎大学を卒業後、九州大学耳鼻咽喉・頭頸部外科に入局しました。これまでも九州大学病院、佐賀大学病院、九州医療センター、佐世保共済病院といった北部九州を中心に勤務地を転々としてきました。佐賀大学病院で勤務していた際に佐賀県の魅力に感銘を受け、もう一度佐賀県で勤務したいという思いがあり今回赴任に至った次第であります。過去の勤務地では、口腔咽頭領域の良悪性疾患、鼻副鼻腔疾患、頸部腫瘍疾患などの様々な症例を経験・治療してきました。耳鼻咽喉科医としてはまだ若輩者ですが、スタッフ関係者と協力しながら地域医療に貢献したいと思っています。院内では常に赤いスクラブを着ていますので、耳鼻咽喉科疾患で何かお困りの際は気軽にお声がけくださいませ。



**本村 彩紀**  
救急科

令和5年4月1日、佐賀大学医学部付属病院高度救命救急センターより着任しました、救急科の本村です。今回、救急科新設にあたりご協力頂いた先生方に感謝申し上げます。

昨年度は佐賀大学に主に3次救急対応を学んできました。佐賀市以外での勤務は初めてなので、これまでとは異なる患者層の対応で、先生方やコメディカルの皆様にはご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、実際、まだ数日間の勤務ですが、鹿島を中心として周辺地域からも多くの方が来院され、救急応需も相まって繁忙を極めていくことを実感しました。不慣れなことも多く、各科の先生方に多くご助力頂いております。早く業務に慣れて診療に貢献できるよう頑張ります。地域に根付いた総合病院の一員として患者様の不安に寄り添い、治療の一助となれるよう微力ながら精進してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

また、個人としてはミュージカルや舞台鑑賞、庭いじりが趣味です。ご興味のある方は話しかけてもらえると嬉しいです。よろしくお願いいたします。

# 研修医の体験記



## 南里 水晶

(佐賀大学医学部附属病院 初期研修医)

私は今年度から開始された西部南部地域プログラムで織田病院を選択し、研修医1年目に1年間織田病院で研修をしました。今年度からのプログラムであり、不安もありましたが、学生実習で感じていた雰囲気の良いさに惹かれ、織田病院を選択しました。

まずは内科から始まりましたが、基本的な業務や手技をしっかり身につけた後に数人の担当患者さんを持ち、主治医として入院患者さんへのマネジメントを学びました。内科研修を行いながら、発熱外来や救急外来、当直を経験しました。初療を実践的に学びながら、その日の内にフィードバックをもらうことで、急性期の対応を学ぶことができました。家族から話を聞いて情報を集めたり、患者さん本人に問診をして鑑別をあげたりと、臨床的な能力をとても育てることができました。また、原則的に診療依頼を断らず、まずは診てみるという総合診療のマインドも学ぶことができ、最後まで緊張しっぱなしでしたが、少しは度胸がついたと思います。

選択では、耳鼻科と皮膚科を選択しました。皮膚科では外来ブースを1つ任せていただき、研修開始2日目から新患を診察させていただきました。带状疱疹の患者さんから、「先生のおかげで良くなりました。ありがとう。」と言っただけ、やりがいを感じました。日々の研修の中で、自分の力不足で悔しい思いをして泣いたこともありますが、成功体験も経験できました。

洋子先生や良正先生の「とりあえず手を出してやってみよう」というマインドに、最初は驚いていましたが、その方が学べることも多く、成長速度が速くなると実感しました。また、研修医1年目にたくさんの経験をさせていただける環境を作って下さり、医師としての責任を早速感じながら研修しました。また、看護師さんを始め、たくさんのスタッフの方々に助けていただき、スタッフの方々からも多くのことを学びました。あまり出来が良いとは言えない研修医でしたが、どの診療科の先生方も優しくご指導頂き、医局でも雑談で話しかけて頂き、とても楽しく1年間過ごせました。先生方、織田病院のスタッフの方々、本当にお世話になりました。今後、また関わることがありましたらよろしくお願ひします。



## 平野 雄介

(佐賀大学医学部附属病院 初期研修医)

皆さんこんにちは。初期研修2年目の平野雄介と申します。

私は2022年より新設されました西部・南部・地域連携型プログラムを選択し、1年目は織田病院、2年目は佐賀大学医学部附属病院にて研修をさせていただいております。

今回は研修体験記を通じて私が織田病院を選んだ理由と、1年目の研修を終えての感想をお話していこうと思います。

まず結論として私が織田病院を選んだ理由は「総合診療に興味があったこと」と「病院の雰囲気が非常に明るかったこと」の2つにありました。1つ目の総合診療について、織田病院は南部地域における2次救急の中核病院です。そこで必要とされる能力はまさに総てを診る能力に他なりません。そこでは地域の中核病院として全ての患者の全ての疾患を取り敢えず診察し、適切なアセスメントを行う必要があります。そのため専門診療科としての看板はあるものの全ての診療科の医師が協力して患者に向き合う環境が作られていました。その中で研修を行い、1人のスタッフとして常に患者に向き合い求められている能力を研鑽することで、1年かけて総合的な視野と思考を育む礎を築くことが出来たと思います。

2つ目の病院の雰囲気についてですが、前述のように織田病院には病院全体で患者と向き合う雰囲気があります。それは看護師も薬剤師も事務も同様で、同じ目標を持った仲間として楽しく仕事を行うことが出来ました。自分はこの雰囲気が非常に好きで辛いことがあってもストレスを抱え込まずに毎日の仕事に打ち込むことが出来ました。ただ、西部・南部プログラムを選ぶ上で研修医の枠、つまり同僚が少ないことに不安に感じることもあるかもしれませんが、しかし前述のように病院内の雰囲気も良く、沢山の友人ができますし、研修医の同年代と比較できない分1人の医師として上級医と共に研鑽を続けることが出来るため、結果的に上級医に囲まれて近い距離で指導を受けられる環境は結果として自分の糧になったなと感じています。

## 造影剤副作用を想定したBLS研修

放射線科 坂田善和

医療安全研修の一貫として、造影剤副作用によるアナフィラキシーショックを想定したBLS研修を実施しました。造影剤の副作用の発生のうち、重篤な副作用が生じる割合は2.5万人に1人、死亡例は40万人に1人ほどで、発症率としては極めて稀ではありますが、軽微な副作用から徐々に重篤化することがあり、初期対応が非常に重要になってきます。BLSは我々放射線技師でもできる心肺停止または呼吸停止に対する一次救命処置です。

今回の研修では、造影剤注入直後に患者の異変に気が付き、アナフィラキシーショックを起こしたことを想定し、応援が到着するまでの一次救命を実践しました。

2名の技師で対応し、1人は患者の意識、呼吸がないことを確認後直ちに胸骨圧迫を開始し、応援とAEDを要請しました。もう1人の技師はハリーコールをし、AEDを持ってきて患者に装着し、AEDの解析を待ちながらバックバルブマスクの準備をしました。その後AED機器の指示に従い電気ショックを行った後、直ちに応援の到着まで胸骨圧迫を繰り返すという一連の流れを行いました。

今回の研修を通して、BLSの重要性を再認識しました。特に夜間や休日では少人数で患者の対応を行っているため、医師、看護師がすぐに駆けつけてくれるとは限りません。そのような中では一次救命が患者の生命に大きく影響することから、初動の大切さを改めて感じる研修となりました。





# クローズアップ

## 毎熊看護・介護部長にインタビュー



Q1. ご出身はどちらでしょうか？

杵島郡白石町 出身

Q2. 趣味や特技などはありますか？

趣味とは言えませんが、絵画や陶器など観ることが好きです。最近、有田焼や唐津焼の推しの作家がおられるので、窯元めぐりなどをして好きな器を買い込んでコレクションしています。

Q3. 鹿島市で行ってみたい所はありますか？

肥前浜宿・酒蔵通りをゆっくり散策して、名酒と美食に酔いたいです。

Q4. 祐愛会（ケアコートゆうあい）の印象をお聞かせください。

ゆうあいビレッジ全体の豊かな緑と色とりどりの花々に癒され、よく整備されていてすごいなと思います。ケアコートゆうあいでは、明るく清潔感溢れるエントランスホールが広がり、北側のガラス張りの壁越しに公園を眺めることができ、さらに、スタッフ皆さんの明るい笑顔（マスク越しでもわかります）と挨拶が、ここは本当に介護施設かなと思うくらいでした。利用者様が心穏やかにまた楽しく過ごせる場所であると感じました。

Q5. 今年度の目標をお聞かせください。

祐愛会法人の理念や方針に基づき、私にできることは何かと考えていましたが、まずは何が求められているのかを把握することからだと思い、今ゆうあい職員の面談を始めています。看護・介護部長を拝命しましたが、職種問わずゆうあい全職員と面談し、もちろん良いところも含め、困りごと等色々会話しながら少しずつ業務や職場環境改善につなげていきたいと思っています。

私的な目標は、京都旅行で正伝永源院を尋ねる事です。



## 健康管理センター便り

News from Health Care Center

乳がんは日本人の女性が最もかかる可能性が高い癌です。早期発見で90%の人が治療可能です。

早期発見のために検診を受けましょう。

今年度からオプションで3Dマンモグラフィが追加可能になりました。

### 【乳腺ドック検査内容】

- 診察
- 乳腺エコー
- 2Dマンモグラフィ+3Dマンモグラフィ



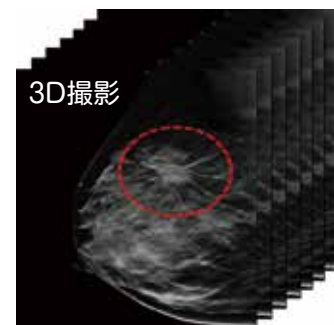
高濃度乳腺は特に乳腺が発達している20代～40代に多く、マンモグラフィでは乳腺も腫瘍も白く描出されてしまうため、腫瘍が乳腺組織に隠れてしまうことがあります。3Dマンモグラフィは乳腺組織の中に隠れている腫瘍を見つけやすくなる撮影技術です。



乳癌の検出率  
40%UP

3D撮影することで

要精密検査率  
15%  
DOWN





**久原 愛矢**  
3階病棟  
看護師

入職して4か月が経ち、自分がないなかった看護師という職に就けたことに喜びを感じると共に、人の命に関わる重大な立場にあることを日々の業務で実感しています。責任と根拠をもって看護を行えるように努力していきたいです。



**江口 海結**  
4階病棟  
看護師

この数ヶ月働いて、受け持ちも6人と増え、オペ出しや入院をやらせてもらったりと毎日勉強の日々です。このように徐々にできることが増えてきたのも、色々なことをさせてもらえるのも当たり前と思わず業務に励んでいます。楽しく・時に厳しくご指導いただけるのも、プリセプターの方の成長させたいという思いが日々伝わります。これからもご迷惑をたくさんおかけすると思いますが、今後とも指導よろしくお願ひします。だいぶ慣れてきましたが、まだまだ出来ない事も多いので今後とも頑張っていきたいです。



**溝口 未祥**  
診療支援部  
放射線技師

入職して先輩技師の方々から日々新たなことを教えて頂き勉強している毎日です。今はCT検査を学んでいます。解剖の知識不足を実感しています。今後は、まだ触れてないモダリティを学び、早く一人前になれるために努力をしていきたいと思ひます。



**江口 輝**  
診療支援部  
放射線技師

入職して最初の方は自分の技術不足や知識不足でミスが多かったりと大変なことありましたが、今は最初の頃と比べると自分の技術の向上や、知識が増えたりと成長を感じられて楽しく業務ができています。今後の目標として、これからの時間を大切に早く先輩たちのような一人前の技師になり織田病院に貢献していきたいです。



**黒瀬 詩乃**  
診療支援部  
臨床検査技師

仕事内容はまだまだ覚えることだらけですが、皆さんに丁寧に教えていただけて少しずつできるようになる仕事が増えてきてやりがいを感じてきました。患者様にも多く関わりたい、どのように接すればいいか、どのようにしたら患者様に負担がこないかをもっと工夫していきたいです。早く一人前の検査技師になれるように、知識も増やして日々の努力を怠らないように取り組んで行きたいです。



**馬場 海帆**  
リハビリテーション科  
理学療法士

慣れない点も多い中、親切な先輩方に助けてもらいながら頑張っています。まだまだ未熟者ですが、これからもうより一層患者様のために精進していきたいと考えています。先輩方これからも何卒よろしくお願ひします。



**西里 海平**  
リハビリテーション科  
理学療法士

リハビリテーション科の方々だけでなく他職種の方も優しく接して下さり織田病院に入職できて本当に良かったと思っています。日々、知識不足を痛感しておりますが自己啓発に努め、先輩方のような理学療法士になれるよう頑張ります。



**藤家 大介**  
連携センター  
事務

毎日様々なことを学ばせていただいているなかで少しでも早く慣れるよう頑張ります。



**南里 朱璃**  
医事課 事務

これまで働いてきて、医療事務の仕事が少しずつ分かってきました。保険証の見方や、患者さんへの接し方、レセプトの入力など、今まで使っていた病院で意識していなかった作業がとて大変だと感じました。

これからは、落ち着いてひとつずつ仕事を覚えていきたいと思ひます。



**北 凛音**  
医事課 事務

だいぶ慣れてきましたが、まだまだ出来ない事も多いので今後とも頑張っていきたいです。



**高井 萌花**  
医事課 事務

4月に比べてできることは増えてきましたがまだまだ覚えることもあって勉強になる毎日です。これからも精一杯頑張りますようしくお願ひします！



**上戸 心好**  
ようこクリニック  
事務

全てが初めてで覚えることが多いですが、ひとつずつできることを増やしていきたいと思います！



**井川 涼花**  
ゆうあい栄養科  
調理員

入社して数ヶ月が経ちまだ分からない事もありますがこれからどんどん経験を積み頑張っていきたいと思ひます。



**前田 美空**  
栄養食事サービス部  
調理員

少しずつ仕事に慣れてきてとてもやりがいのある仕事だと感じました。これからは患者様のために美味しく、楽しい食事をとってもらうために頑張っていこうと思ひます。

## 編集後記

連携センター 原 和行

大谷翔平選手の二刀流がWBC優勝に続いてメジャーリーグでも旋風を巻き起こしています。メジャーリーガー達も驚愕する活躍が日々報道され、スポーツニュースを楽しみにしています。彼のプロフェッショナルとしての言葉や行動は学ぶべきところが非常に多く、メジャーリーグでの3冠王という歴史的快挙を期待せずにはいられません。

5月8日からコロナウイルス感染症は第5類感染症へ移行しましたが、コロナウイルスがなくなつたわけではありません。基本的な感染対策をきちんと行い日常生活を取り戻しましょう。

織田病院では9月12日、13日に6回目の病院機能評価受審という一大イベントが待っています。一致団結し乗り切りましょう！

